

ま

市民活動や地域活動に取り組む皆さんを紹介します。

らっと! introduction



心と心がつなぐ復興への道

江尻幸子さん
(高茶屋七丁目)
萩野茂樹さん
(大谷町)



汗だくになりながらの作業は大変でしたが、また参加したいと思えます

3月11日の東日本大震災から半年、これまでたくさんの方が復興への力になってきました。その一人、萩野茂樹さんは、津市ボランティア協議会副会長として被災地でのがれき撤去などを行うボランティアバスの運行を主催しています。

そして、6月と7月に実施したその活動に続けて参加した江尻幸子さん。初めてのボランティアでしたが「少しでも体を使って皆さんの力になりたかったんです。さまざまな年齢や職業の人と力を合わせて同じ目標に向かって取り組みたくて」と参加を決めました。初めて被災地を訪れた時、映像で見た状況をはるかに超え

た、どこまでも続く津波被害の跡を目の当たりにして呆然としたと話してくれました。

みんなのためにという思い

車中2泊現地1泊の4日間の行程で、萩野さんや江尻さんとともに岩手県陸前高田市での活動に参加したのは、これまで、のべ90人ほど。現地での活動は2日間で、片道14時間かけて陸前高田市災害ボランティアセンターに9時ごろ到着し、指示された場所で15時ごろまで作業します。「堤防近くの側溝からがれきを取り出したり、墓地や周辺に散乱したがれきを片付けたりしました。初めて出会ったメンバーでしたが、一緒に作業するうちにメンバーに一体感を感じました」と江尻さん。2度目に訪れた時、「1回目の場所の近くを案内されました。1カ月ほどの間に、別のチームが私たちの続きを作業したことが分かりました。私たちの続きを誰かが、その続きをまた私たちが。まるで駅伝のよう。みんなの思いが繋がっていくのを実感しました」と二人。

また、「ボランティアの世話のため、現地ですべて迎えてくれる人がいます。自宅を流



みんなで力を合わせてがれきを撤去

人を思う気持ちや優しさがボランティアの原点であるとあらためて気付かされたという萩野さん



されながらも震災直後からみんなのためにと行動する生き方に学ばされ、パワーをもらいました」とボランティア経験30年以上の萩野さんは言います。

つながっていく支援の輪

ボランティアバス以外にもさまざまな支援に取り組む萩野さんは、地域の皆さんと顔の見える関係をつなぐことができる支援を心掛けています。被災地では、市街地を離れると手つかずの所がたくさんあります。私たちと一緒に支援の輪を広げてみませんかと呼び掛けています。

互いを思い合う気持ち、そこから広がる絆が復興への近道になるのかも知れません。

ボランティアバスについての問い合わせは津市ボランティア協議会、副会長萩野さん宅 (☎225-1837) へ



全国各地から集まったボランティア